

## 返町昭男家文書と目録作成について

- 1 今回『須坂市誌』の編さんに当たり、須坂市相森町（旧日滝村相森新田）返町昭男家保存の史料を提供いただき、須坂市誌編さん室で史料整理と目録作成に当たった。

返町昭男家の祖先は、山田村方面から移って来たというが、その年代は明らかでない。現当主昭男氏は自分が11代目に当たるということ、先代からしばしば聞かされてきたという。ちなみに相森新田は、旧谷街道(現国道403号線)沿いにできた集落で、その成立は明暦2(1656)年頃だとされている。

本史料の範囲は幕末から大正時代までのおよそ65年間である。幕末から明治初年に相森新田の名主を勤めた7代目彦右衛門と、次の本重(十)郎時代の記録が主である。

なかでも、8代日本重郎は早害常襲地である相森を含めた日滝原への引水をめぐって、高井野村と繰り返した水争いや、日滝村内で起きた水車問題等では中心人物の1人として活動した。それらに関する貴重な記録等も残している。一方、本重郎は絵図作成の技量にも優れ、日滝村(本郷)の牧祥周とともに、地租改正、地券交付に不可欠な絵図等もたくさん作った。その絵図と共に若干ではあるが製図用具も残されている。

絵図のなかには日滝村全図、小字ごとの絵図、明治初年の相森住民の氏名入り絵図等の貴重なものもある。その他宗門改帳、日露戦役後に新設された溜池工事のことなどの文書もあり、今後とも大切に保存し続けていただきたい。

- 2 本史料を長く保存し今後の調査研究に活用できるように、「返町昭男家文書」とし、『須坂市域の史料目録』の連番号「044」(44番目)に位置付け、下記のように分類し目録を作成した。史料点数は130点である。

A 文書とその関連絵図	86点
B 絵図その他	44点

- 3 史料目録作成にあたっては、保存状態・形態を考慮しながら、史料閲覧の便宜を考慮して、次のように整理した。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を、そのまま記載したが、表題のないもの、または不明の史料については、目録作成者が内容を検討して(相森地蔵堂地所絵図面差上)のように( )書で記載したものもある。

(2) 史料形態については、縦(縦帳)、紙(一紙)、横(横帳)、横半(横半帳)、綴(綴り)、冊、絵図などとした。

- 4 本史料目録が、地元相森区をはじめ日滝地域史の研究に活用され、区誌、地域誌作成の一助になることを期待したい。
- 5 史料の整理、文書目録の作成は小林謙三専門員が担当した。

2011年11月10日

須坂市誌編さん室